



みわを元気に

三和地域協議会ニュース 第46号 令和4年12月15日発行

三和地域の人口・世帯数
 男 1,499人
 女 1,541人
 合計 3,040人
 世帯数 1,650世帯
 (令和4年10月末 現在)

発行：三和地域協議会

三和フォトコンテスト表彰式も 同時開催しました

三和荘ロビーでは、三和ふるさと写真コンテストの受賞者の表彰式を行いました。最優秀の金賞は嘉寺(かじ)典子(のりこ)さん



金賞・嘉寺さん



銀賞・リンさん



銀賞・細見さん



銀賞・仲野さん

「生きがい」、銀賞は仲野(なかの)宏樹(ひろき)さん オリジナルメダル「お気に入りの場所」、細見(ほそみ)毅(つよし)さん「緑の夏 細見谷」、リンボオホンさん「笑顔」の作品が選ばれました。金賞・銀賞の皆さんに副賞として贈呈したオリジナルメダルは、三和町芦洲のコアマシナリー株式会社に作成していただきました。



表彰式の様子

三和 フェスティバル

2022 ふれあい ティバル

3年ぶりに開催しました



大迫力の二人立ちの獅子舞。また、司会は、三和町辻の高校1年生の長澤一花(いつか)さんにお世話になり、ステージを盛り上げていただきました。

3年ぶりとなる「三和ふれあいフェスティバル」が、11月12・13日に三和荘周辺で開催されました。13日はあいにくの雨となりましたが、約千人(主催者発表)の人たちが訪れ、楽しいひとときを過ごされました。三和荘前の会場の模擬店では、手作り体験、駄菓子、あてもん、ドキドキ玉子ゲームや農産物、松茸めし、いかめしやサンドウィッチなどたくさんさんのブースが並び大勢の人たちでにぎわい、ホールでのステージ発表では、オープニングを飾っていただいた梅田神社奉納神楽保存会による奉納神楽と神楽舞、よさこい、大正琴、ハーモニカ、舞踊、詩吟、安来節、フラダンス、バンド演奏など13団体の発表が華やかに繰り広げられました。



司会の一花(いつか)さん



フラダンス



安来節



よさこい踊り



スタンドグラス



模擬店のようす



米傳福踊会



ハーモニカ



アンクルトム



三和学園



三和こども園

1月6日(金)からは、「新春おめでとう福引」を開催します。本を借りていた方(先着順)が対象です。景品がなくなり次第終了しますのでお早めにお越しください。

☆年末年始の休館日のお知らせ☆
 休館日は
 12月28日(水)～1月5日(木)まで



折り紙付きミニおはなし会セット

大好評！
 「おうちでミニおはなし会セット」
 図書館三和分館では、テーマに合わせた絵本を3冊セットにして貸出をしています。12月・1月のセットのテーマは、0・1・2歳向け『あつたかいね』『みんなでメリクリスマス』など幼児から小学生低学年向け『クリスマスのおくりもの』『十二支あつまれ』など冬を感じる本のセットで、可愛い折り紙付きです。おうちで楽しいおはなし会を開いてみませんか？家族で笑顔いっぱいのお楽しみ時間を過ごしてくださいね。

図書館からの
おしらせ

旧菟原小の跡地活用 和着物レンタル会社の京織が進出



メンテナンス作業のようす
京織の田中元子社長は「京阪神から関東方面へ販路拡大を目指しています。交通の利便性の高い菟原の商品管理物流センターにその一翼を担ってもらいます。障害者と健常者が共に働ける場とする一方、イベントなども企画して地域住民の交流、活性化のお役に立ちたいと思っています」と話しています。

旧菟原小学校(福知山市三和町菟原中)の跡地活用で、振り袖や袴(はかま)のレンタル事業を展開する京織(本社:京都市中京区)の進出が決まり、10月から商品の修繕、保管を担う「福知山商品管理物流センター」として始動しています。新年には陣容を整え、本格稼働する予定です。
大規模な改修はせず、体育館と校舎をつなぐ渡り廊下のバリアフリー化や洗濯場の設置などの工事にとどめます。校舎屋上の赤茶色をした四角すいの屋根を持つシンボルの時計台をはじめ、学校の全容はそのまま残ります。
旧菟原小は令和元年3月に廃校になり、福知山市が民間事業者から活用アイデアを募集。その中から京織が選ばれました。同社の計画では、校舎棟の1階は襦袢(じゅばん)や帯など着物用小物をメンテナンスする作業場、2、3階はそれらを管理する倉庫に、体育館は振り袖などの展示会で使う机やイスなどの保管所として活用します。また、地域の活性化に向けて、校舎棟には住民らが集えるコミュニケーションルームを設置。グラウンドは四季の果物が育つフルーツガーデンにする構想が進んでいます。地元食材を使い、一流の料理人を招いての「お料理会」など交流イベントも企画されています。従業員は、パートを含むスタッフ約10人、障害のある方20人ほどを採用する予定で現在、募集中です。仕事の内容は着物・小物の整理、メンテナンス、和装小物の製作作業、洗濯やアイロンかけなどのほか、商品運搬や送迎業務も。スタッフ希望者は株式会社「京織」電話075(241)5589まで、また、障害者雇用に関しては、京織と提携している一般社団法人「あすへのとびら」の竹中さん電話075(748)1330まで連絡をお願いします。



(旧) 菟原小学校

三和を知るお蚕さん・お米づくりの教室

三和学園三和創造学習(※)地域講師 吉田武彦

今回は学校とは別に、個人として川合小学校の教室をお借りし、作った資料室の案内をします。コロナ禍のため、学校に持ち込むべく集めた汚れた蚕具・農具を洗うことがきっかけで資料室ができました。
●特徴
●養蚕とお米づくりの手順を写真と実物の蚕具(50以上)・農具を置き、解説し展示しています。
●三和の地形模型を置き、三和地域の養蚕とお米づくりに関わる背景を展示しています。

◎お蚕さんの教室

江戸時代の養蚕の様子が変わる大原神社天蚕図。お蚕さんの卵(来年少化予定)。成長に合わせ使う網の目が大きくなる「糸網」。蚕の脱皮した抜け殻。桑の葉を摘んだ「桑切爪」、いっぱい桑の葉を詰め込んだ「いんどこ」。お蚕さんの桑の葉を食む雨のような音は脳裏に焼きついていきますね。「はんかこ」をのせる「蚕棚」も作ってみました。今年育てた春蚕、夏蚕、秋蚕の繭も展示。昭和4年版の京都府蚕桑図絵には養蚕神社でもあった大原神社や郡是萩原工場が記載。芦洲の蚕業組合記念碑・清高宮・河野太一郎徳碑の独自の展示もあります。真綿や実際に繭から糸を紡いだ生糸。三和学園4年生はこれらを体験的に学びます。今年の上川合いききサロンへの訪問蚕交流での「涙が出るほど嬉しかった」という感想もご覧下さい。

◎お米づくりの教室

大原神社絵馬殿の昔のお米づくりの流れを描いた「四季耕作図」。昔の農具から先人の智慧・工夫、現代の機械のすごさを学びます。家族の一員、労働力だった牛が祀られる上川合稲葉神社の夏祭り、



お蚕さんの教室

◎電話をいただいて開館します

大原神社のお田植え祭も展示。「手押し稲刈り機」「千歯こき」「足踏み脱穀機」は毎年5年生が使用。「田舟」も設置。脱穀の「唐さお」は、綾部の民話「杵の宮伝説」で米かち杵として登場します。約2m四方の三和地形模型は平地が少なく、谷間を流れる土師川とその支流が一目でわかります。そこから轟水や大坪井堰の水路、実物の水車と共に、先人の水確保の苦勞を感じとることができます。最後に、農村・農業の多機能として、洪水や土砂災害の防災なども提示。三和学園5年生の圧巻の学習のまとめもご覧下さい。ギャラリーには「唐箕」「縄ない機」、わらで作られた「わらじ」「雪ぐつ」の日用品や「しめ縄」、お蚕さんが繭をつくるときに使う「まぶし」。祇園祭の山鉾の縄がらみに使われる田尻製縄所(友洲)の縄も展示しています。三和町に関わる書籍や冊子も展示収集中です。



ギャラリー



お米づくりの教室

FM丹波で月～金放送バラエティ番組「七色エティワイド」内の情報発信している『みわを元気に』のコーナー、第30回が10月12日に放送されました。今回は、三和ふれあいフェスティバルにもご出演いただいた「ミニコーン」の細見宣哲さんと、板谷博さんにお越しいただきました。ポップコーンというバンドに所属されているお2人が、三和地域で活動する時に名乗られているのがミニコーンという名前です。結成の経緯やバンド活動について、お話いただきました。もちろん生演奏も！フェスティバルでお聴きになられた方もおられると思いますがお2人の演奏とハーモニー、とっても素敵です♪右下のQRコードを携帯電話・スマートフォンやタブレットで読み取り出てきたリンク先をクリックすると、内容をお聞きいただけます。(通信料がかかります)



板谷さん(左)と細見さん



みわしまわりライド

累計(平成29年10月～令和4年10月)	
会員登録者数	167人(男性37人・女性130人)
利用者数	122人(男性29人・女性93人)
運行便数	3,163便
輸送人数	3,542人

みわしまわりライド・サポートの利用状況をお知らせします!

みわしまわり サポート

累計(令和3年7月～令和4年11月)	
ユーザー登録者数	33人
利用者数	22人
利用件数	72件(ゴミ出し等)